

地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

NPOと市民をつなぐ機関誌

まはる

- 特集
- まんまるニュース
- Myストーリー
- まんまるの! 新NPO紹介
- お宝ざくざく 地域を掘りおこせ!
- まんまるイベントスケジュール

特集

地震・水害・土砂災害…

ひと 他人ごとじゃない!



2018
春号
No.16

特集

地震・水害・土砂災害： 他人ごとじゃない！



東日本大震災、長野県北部地震、神城断層地震…この10年ほどで、日本は何度も大きな災害に見舞われています。長野市も過去には地震だけでなく、水害や地滑りなど災害とは無縁ではありません。

「天災は忘れたころにやってくる」ということわざがありますが、みなさんはいざというときのために何かしていますか？ 日頃からの防災・減災の取り組みを継続させるにはどうすれば良いのか？ 災害の記憶をとどめておくにはどうしたら良いのか？ 市内の動きから考えてみましょう。

県域で災害時の連携体制を

東日本大震災のとき、多くのNPO・NGO・企業が現地に入り活動しましたが、それぞれが個々に支援をしていたため、被災者のニーズに対して、「誰がどこで」「どれくらい」支援しているのか？ できるのがあるのか？ を集約する仕組みがありませんでした。

そこで、NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)が設立されました。「1昨年の熊本地震では、協働により、迅速かつ効率的な支援を実現できた」と事務局

長の明城徹也さん。

1月29日ホテルメトロポリタンで、県下初の「災害



それぞれができることを出し合う

時の連携を考える長野県フォーラム」を開催し、県内外からNPO・企業関係者など180人が集まりました。県内で大規模災害が起きたときを想定し連携・協働による支援体制づくりを目的に、長野県生活協同組合連合会・NPO法人長野県NPOセンター・長野県社会福祉協議会が三者で主催しました。

全国ボランティア・市民活動振興センター副部長・園崎秀治さんは、「阪神淡路大震災以来、社協が災害時に大切な存在として認知され、ボランティアが災害支援や復興力を発揮してきた。今後、被災地が援助を受け入れる力を高めることが大切」と話しました。

後半は、参加者が災害時にできることや課題の共有をしました。災害時に欠かさないのが分野の枠を超えた支援の輪です。この日の出会いを生かすためさらなる取り組みを期待したいと思います。

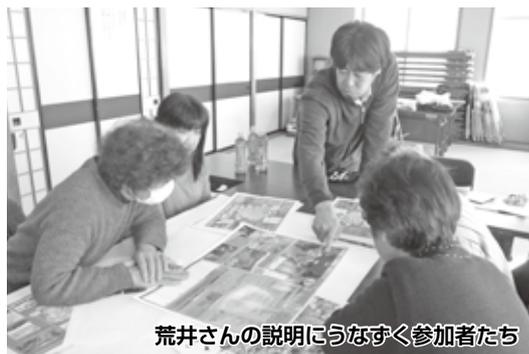
芋井でドローンを使った 防災マップづくり

NPO法人 ecology&eco-
lives 信州

芋井地区は山間に集落が点在する地区で、大きな災害が発生すると孤立してしまう集落が27あります。

NPO法人 ecology&eco-
lives 信州理事長の荒井克人さんは、平成26年の神城断層地震をきっかけに、環境保全の取り組みを通して得たノウハウを防災に生かせないか模索してまいりました。そんな思いに共感した芋井地区住民自治協議会、長野高専の松下英次准教授との協働で、集落ごとの防災マップ作りを平成27年に始めました。

2月4日、芋井支所に松久保地区の住民10人が集まりました。まず、荒井さんがドローンで上空から撮影した200枚の写真をもとに地区内を歩いて得た情報、松下先生から得た過去の地殻変動や地質などの情報を落とし込んだ地図を広げます。そこに、参加者が日頃感じている危険箇所や気になっている塀や建物、湧水などを、地図上に書き込んでいきます。また、歴



荒井さんの説明にうなずく参加者たち

史や文化も災害とは無縁ではないということに着目し、大切な情報として追加し、次世代に伝えることも忘れてはいけません。

荒井さんは、「ドローンや専門的な根拠から地図をつくり、その後、育て上げていくのはそこに住んでいる人の知識であり、決めるのは住民だ」と考えています。この日も、2月5日曜日の午後2時、震度7の地震が起きたとして、どこにいるのか？ 避難所となっている小学校まで登っているのか？ 地区にはどれ



くらの備蓄品があるのか? について意見を合いました。参加した松久保地区区長の立岩久幸さんは「集落の危険箇所をみんな確認し、いざというときのことを考えていく良いきっかけになった」と話していました。

今後、芋井地区内すべての集落でのマップ作りを目指しています。



できあがりのイメージ (写真は他の区のもの)

地区で人材育成

災害に強いまちへ

第1〜5地区で研修会

1月31日、長野市生涯学習センターで、「防災士フォーアアップ研修会」が開催され、第1〜5地区の防災士と地区役員38人が参加しました。同地区では、市の

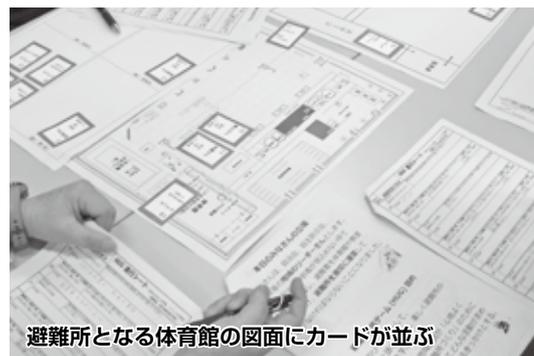


カードをどこに置くか議論をくりかえす

「地域発きらめき事業」で、地域の防災リーダーとして防災士を育成しています。平成28年度から2年間で、43人の防災士が誕生しました。

この日は、市建築指導課から木造住宅の耐震化事業について説明を受けた後、県危機管理防災課の出前講座を活用して避難所運営ゲーム「HUG」に取り組みました。

HUGは、災害時の人・モノ・課題がカードになっていて、それを図面に置きながら解決策を考えるゲー



避難所となる体育館の図面にカードが並ぶ

ム。「高齢者や障がい者」「小さい子ども連れ」「ペット連れ」「テントや車で生活したい人」などが、避難所になった学校に次々とやってきます。また、トイレが詰まったり、苦情があつたり、支援物資が届くなどいろいろなことが起きます。

このゲームに正解はありませんが、意見を交わしながら一緒に考え、災害時のことを想像することができま。参加者が積極的によい方法を探る姿は印象的でした。まとめでは、「これからも何度も繰り返しやってみよう」との声も聞け、市担当者は、「来年度以降どう取り組みを継続していくか考えていきたい」と話しました。

自分たちの地域を把握し

地域を守るには

地域まんまるin第3地区

当センター主催の「地域まんまる」、今回は防災をテーマに2月17日に第3地区で開催し、約60人が参加しました。企画は、防災に取り組む団体「ながの災害・防災ネットワークみらい(通称:ながのみらい)」。防災士の育成など積極的に防災に取り組む第3地区住民自治協議会に声をかけ実現しました。

講師は認定NPO法人かながわ311ネットワークの石田真実さん。神奈川県を学校を中心に防災教育を企画しています。講演では、いざという時どう動いたらいいのかを具体的に説明。また避難所で女性専用スペース作りの事例を紹介したり、地震の実験映像を流して「物が倒れる落ちる移動する」ところから逃げる鉄則を訴えました。

後半はDIG(災害イメージゲーム)を使って、8グループに分かれ疑似体験。第3地区は、権堂商店街や大型スーパー、映画館など、多くの市民が利用す



参加者の発言を聴く石田さん

る中心市街地です。地図上にまず、道路や水路、危険地帯や消火栓、住宅の密集地域などを色マジックで記入し、地域全体の地形や特徴を明確にしていきます。それを見ながら「道が狭い」「マンションの住人をどうするか」「木造住宅が多く火災が起きるのでは」「外国人が多い」など、客観的に地域の課題をみんなで抽出しました。

第3地区住民自治協議会事務局長の浅倉信さんは「住民や地区外の人とワークショップ形式で防災を考



地図から見つけた課題を
発表、全体で共有



仮設トイレなども展示

える機会(は初めて。改めて地域を把握する機会になった」と話しました。講師の石田さんは「女性の目線を入れて防災を考えられたことがよかった」とコメント。ながのみらいの鈴木義人さんは「こういうワークショップをぜひ市内各地で開催したい」と意欲的でした。

こうした研修は、住民一人一人が自分の地域の特徴を把握することにつながり、自分たちの地域は自分たちで守るといふ、地域の防災意識を育てる活動となるでしょう。

区で防災アンケート そこから見えたものは?

朝陽地区北堀区

朝陽地区北堀区では、昨年全戸に防災アンケートを実施しました。1020戸のうち590戸から回答を得て、まとめたものを順次住民に回覧しています。

きっかけは、平成29年4月の総会で、今回のアンケートを企画した村田憲明さんが「区の事業を理解してもらい、一緒に考えていくために住民対象のアンケートを実施しては？」と発言したことでした。千野登区長と相談し、テーマを防災としました。村田さん自身、東日本大震災のときにボランティア活動に参加、現在もながの災害・防災ネットワークみらいのメンバーとして活動していることが大きな理由です。

集計の結果、家族内での安否確認について話合っていない人が半数、家具の固定や備蓄品の準備をしている人は内閣府調査の全国平均より低いことがわかりました。一

方、災害時に自宅スペースを提供できると答えた人が87人で15%、安否確認は36%、救援活動は37%ができると答えていて、地区内で助け合う意識は高いことがわかりました(グラフ参照)。



災害は自分ごと

「住民の気持ちが変わったことは大きな収穫。アンケートに答えることで、改めて災害・防災について考えてもらえたら」と千野さん。今後は、データを整理して区民がいつでも見られるようにする予定です。

誰もがなんの根拠もなく「うちは大丈夫」「ここでは起きない」と思い込んでしまう災害。いざというときも、備えあれば憂いなし。備えはモノだけではなく、正しい情報、そして、心も人間関係も必要です。自分の地区を知り、一人暮らしの高齢者や障がい者、小さい子どもがいる家庭など、近所に暮らす人たちにも思いを巡らせてみてください。

そして、まずは家族と災害時にどう連絡をとるのかを相談するところから始めてはいかがでしょうか。

市内で災害・防災に関する活動をしている NPO リスト

NPO法人 ecology&eco-lives 信州	ドローンを利用した集落ごとの防災マップ作り
NPO法人 環境・福祉事業評価センター	災害救援活動・地域安全活動の支援 福祉避難所マップ作成
NPO法人 長野県地すべり防止工事士会	防災に関する講演会・調査活動
ながの災害・防災 ネットワークみらい	災害支援活動と防災活動の紹介・意識啓発活動
楽しいBOSA I	親子で楽しく学べる防災イベントの開催 防災出前講座等、地域を中心に活動

～おまけ情報～

長野県危機管理防災課・長野市危機管理防災課では、災害・防災に関する情報提供や出前講座をしています。また、ハザードマップ・地区別防災カルテなどは、市のホームページから見るができます。

<https://www.city.nagano.nagano.jp/life/1/9/40/>



「女性議員と語るろう！」

女性の活躍社会って?!

生き方を尊重し合える社会へ

人生に向き合い、議員という道を選んだストーリーに、参加者がうるつとする場面も。

テーマごとに5つのグループに分かれ、全員が各テーマを回り意見交換しました。

「女性が幸せ感や満足感を持って生きられる社会に」「生

き方の選択には責任が伴う。挑戦からは成功と成長しか得られない」「名字の選択をできる制度を」「男女関係なく

地域課題について知恵を出し合う「ポップアップ知恵出し会議」。2月2日は「女性議員と語ろう! 女性の活躍社会って?!」をテーマに、参加者25人が「女性が安心して活躍できる社会」を考えました。

長野市市議会議員5人からの6分ずつのスピーチでは、それぞれが一人の女性として

地域課題について知恵を出し合う「ポップアップ知恵出し会議」。



男女の立場を越え、本音で意見交換

能力が評価されるべき」「一人を抱えず地域まるごと子育てを」などの意見が出ました。

参加した男性からは「自分が勇気をもって一歩踏み出すこと。また周りの人とのコミュニケーションが大事で、

人脈をふやすこと」との声も。「楽しかった!!」「活動のヒントを得られた」など参加者は大満足でした。

地域課題とNPOをつなぐポータルサイト「ナガクル」の開設に先立ち、2月10日(土)に「SDGs(エス

ディージーズ・国連の提唱する持続可能な開発目標)」をテーマにした記念会議が開かれました。会場には40人ほどが集まり、新サイトオープン

に向けた歴史的な瞬間を共有しました。

まずはじめに、SDGs

市民社会ネットワーク理事の星野智子さんが「SDGs

とはなにか」を講義。地域の課題が世界へとつながっていること、課題と課題もつな

がっており多様な団体が手を組んでいくことが重要と話しました。続いて、長野で活動する5つのNPOが取り組む社会課題と活動のゴールを発表。熱意がこもった発表を、来場者は真剣なまなざしで見つめます。グループワークでは、SDGsの17のゴールパネルのカードを自己紹介シートに貼り、交流しながらそれぞれ自己の活動を改めて整理し確認。また、金融機関の日本政策金融公庫、助成団体の赤い羽根共同募金会からもスタッフが来場し、

に

の

の

の

の

の

「NPOサイト」

「NPOサイト」

ナガクル

オープン記念会議



SDGsカードを使つてのグループワーク



星野さんによるSDGsの講義

#04

My
ストーリー

特定非営利活動法人食育体験教室・コラボ

理事長 飯島 美香さん

活動の原点は約20年前。飯島さんの長女がアトピー性皮膚炎と診断を受けたことがきっかけです。それまでは仕事一筋で、子育てや食事にあまり関心はありませんでした。アトピーについて調べ、食べ物に気を遣いはじめます。ただ、仕事を辞めての子育ては、子どもと二人きりで息が詰まるものでした。

そんな折、自然豊かな土地に移住。子どもと畑に出ると楽しい気持ちになりました。家の近所には同時期に子どもが生まれた母親が5人いて、飯島さんは、その仲間と畑を耕します。この集まりがコラボの原型です。

活動が広がり、自宅以外の活動場所を探す中で、NPO関係者から「NPOを立ち上げてみて」とアドバイスを受け、NPO法人を設立。農業体験をはじめ料理教室などの活動にも力を入れました。

その後、東日本大震災が起こります。報道で「支援物資の温かいみそ汁とごはんをもらった時



がうれしかった」という子どもの言葉に、飯島さんは「これだ」と感じ、みそをテーマにした活動をスタートさせます。2014年にエムウェーブで行われた第9回食育推進全国大会では「食育劇団ええ〜っこ」として公演。翌年には、NPOのネットワーク「ながの協働ねっと」が立ち上がり、そこに「信州発！一杯のみそ汁プロジェクト」を提案し、「みそフェスタ」開催を実現。協働により活動規模を拡大させます。

この先も、農業や食を通じて、子どもたちのオアシスや多世代交流の場をつくる活動をしていきたい、そう語る飯島さんです。

団体情報

特定非営利活動法人食育体験教室・コラボ
〒388-8017
長野市篠ノ井山布施 5401 番地 2
URL <http://colabo1966.naganoblog.jp/>

プロフィール

いいじまみか ながの協働ねっと副代表。長野市信里地域で夫・子ども4人と楽しく暮らしている。モットーは「明るく暮らす」「何にでもワクワクする」

NPO法人とがくししょうま

まんまる!

新

NPO紹介

また、障がい者だけでなく子どもや高齢者も含めた地域の居場所として、これからさまざまなアイデアを出していきたいとのこと。スタッフ自身も楽しみながら、利用者に喜ばれる場所をつくっていきます。乞うご期待!

特定非営利活動法人とがくししょうま
〒381-4102 長野市戸隠豊岡 2050-1 (とがくししょうまの家)
TEL/FAX : 026-254-2225

代表の橋詰ゆき枝さんは「誰もが一人にならないために生活していける支援をしたい。また、作業プログラムを増やしながら、利用者が自分に合ったスタイルで通える環境を整えていきたい」と話します。

NPO法人とがくししょうまは平成29年12月17日に設立。障がいのある人が地域で日常生活や社会生活を送れるよう支援する施設「とがくししょうまの家」を市の指定管理者として平成30年4月から運営します。



NPO法人設立総会後、祝賀会であいさつする橋詰さん

新しい地域の居場所へ

6次産業で地元農家を支援

「川中島白桃」の発祥の地である川中島地区で、地元有志が平成18年に立ち上げた「白桃の里プロジェクト」。農家の後継者不足を食い止めようと、地元住民自治協議会主催イベントへの協力をはじめ、規格外の川中島白桃を使ったジャム作りからはじめました。平成23年には「NPO法人信州・川中島平フアクトリー」として法人化。地元企業や海外で修行したパティシエとの協働により地元産の桃にこだわった高品質な商品（ジュレ・ドライ）を展開し、地域ブランド力を高めています。

ドライフルーツ用の桃の出荷総数は昨年32t、今年はずでに50tを超える受注があり、関わる地元農家の数も昨年の30から40軒ほどに増加。仲間が広がっ

ています。

2月21日には、NPO・地元農家・企業が集い、出荷に向けた勉強会が行われました。「予想以上の注文をいただいたのは、チームワークによって効率の良い生産体制が確立できたため」と代表理事の宮崎愛子さん。勉強会でも、参加農家から細かな質問が出され、企業・NPO関係者が丁寧に回答し共有していました。

宮崎さんは、「安定した出荷を維持することで、若い方たちの参入も促し、規格外の桃の価値を高め、農家の所得向上に貢献したい」と意欲を語りました。



県内企業と作っているオリジナル商品

お宝ザクザク 地域を掘りおこせ!

川中島 & シニア大学



地域活動を知り、つながる場

中春海さんは、「地域の中でたくさん大人の囲まれながら育つ環境は子どもにとつて幸せなこと。気軽に活動に参加してほしい」と子育て支援への参画を呼びかけました。

主催団体の一つ、(公財)長野県長寿社会開発センターの齊藤むつみさんは、「今回は特に出席団体間の横のつながりが多く見受けられた。次年度は市町村社会福祉協議会と協働しながら、各地域で開催し、これまで以上にシニアの社会参加活動を促していきたい」と意欲的。

参加者はさまざまな選択肢を知ること、自分に合った社会参加の形をイメージできたようです。

シニアの社会参加促進などについて語り合うタウンミーティング「地域づくり出合いのひろば」が、2月7日市内で開催され、140人が参加しました。シニア世代の積極的な社会参加活動や、地域・業種を超えた新たな連携や協働を創り出すことが目的です。地域づくりの人材を求めるNPO、社会福祉協議会、ハローワーク、シルバー人材センター、行政関係者、シニア大学(専門コース)の受講生を含む31団体が出展し、「人・コト・モノでつながる」をテーマに、一般参加者70人に向けそれぞれの活動を熱い思いで伝えました。

NPO法人ながのこどもの田城いきいきプロジェクトの田



出店者と話す参加者。熱が入ります!

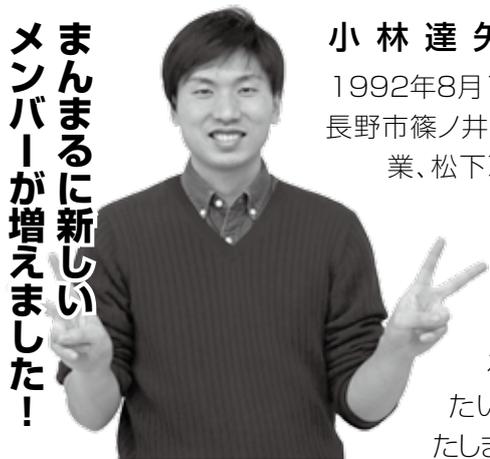


市民協働サポートセンター スケジュール

2018年 4月▶ 6月



タイトル	日時	会場 / 費用	内容
初歩講座「きほんのき」	4月25日(水)13:30-16:00 5月23日(水)13:30-16:00 6月27日(水)18:30-21:00	市民協働サポートセンター 300円	「NPOってなあに?」法人を設立したいという人もまずはこの講座から始めましょう。毎回ゲストに、市内NPO法人を招いて生の声を聞いています。6月は夜の開催となります。
NPO ステップアップ講座 広報のいろは人が集まる広報力① 「心をつかむチラシづくり」	5月26日(土) 13:30-16:00	もんぜんぶら座 302会議室 300円	NPOや地域のイベントのチラシ作りに悩んでいませんか? ターゲットとなる人の心にヒットする、誰もが見やすく気持ちいいチラシとは?! ワーク形式で楽しく学びます。講師:寺澤順子(まんまるスタッフ・編集者)
NPO ステップアップ講座 広報のいろは人が集まる広報力② 「SNS 映えする写真力」	6月23日(土) 13:30-16:00	もんぜんぶら座 304会議室 300円	ネット・SNS時代に大事なものは目を引くキャッチーな写真です。撮り方の基本を学んで、明るいクッキリした写真を撮りましょう。プチワーク付きでみんなで一緒にステップアップ!講師:立岡淳志(写真家)
NPO カフェ まんまる  1+2+3=6次産業で NPOは稼げる!?	5月17日(木) 13:30-15:30	市民協働サポートセンター	6次産業とは、生産者が生産や製造(1次産業)だけでなく生産物の加工(2次産業)や販売、それらを提供する店舗も一緒に経営する(3次産業)産業形態です。市内NPOの事例をもとに6次産業の可能性を探ります。
ポップアップ知恵出し会議 まちづくりの拠点 ‘新生!もんぶら’ 妄想しゃおう!	6月1日(金) 13:30-16:00 (予定)	もんぜんぶら座 会議室 無料	もんぜんぶら座は、現在ありかた検討がされています。日頃もんぜんぶら座を利用しているNPOや市民グループなど多様な市民が集まって、「こんなもんぶらに生まれ変わったら!?こんな施設があったら!」などを妄想する会議です。
ポップアップ知恵出し会議 空き家放置に物申す! 地域でのユニークな活用を考えます	7月上旬開催予定	もんぜんぶら座 会議室 無料	空き家が社会課題となっています。放置した空き家が、地域のみんなが集まれる場所に生まれ変わったとしたら!? 託児所やデイサービス、カフェやゲストハウスなどなど。活用事例発表と共に知恵を出し合います。



小林 達矢
1992年8月1日生まれ。
長野市篠ノ井出身。日本大学法学部卒業、松下政経塾を卒業。自治体職員研修や大学講義で自治体経営ワークショップを開催。市民の皆さんが大好きだと思える長野を共に作っていきたくです。よろしくお願いたします。

まんまるに新しいメンバーが増えました!

募集! ローカルヒーロー

市内で地域を愛し、支える活動をするローカルヒーローを紹介するコーナーを作りたいと考えています。あなたのそばにもきっといるはず! あなたが見つけたローカルヒーローをぜひご紹介ください。まずは、まんまるまでご連絡を。

まんまる はココに! 機関誌まんまる設置場所募集!!

長野市北部のSBC通り沿い、吉田高校近くにある「パソコン処(どころ)」（長野市吉田1-16-22/TEL026-262-1314）。パソコンでの「困った」を気軽に相談できるお店として、フレンドリーなスタッフが親身になって対応。明るくリラックスした雰囲気の店舗は、初めての方でも安心して来店できます。
まんまるを設置いただける場所(カフェや金融機関、病院、商店、福祉施設など)を募集しています。まずはセンターまでお問い合わせください!



編集後記
春です♪まんまるに来て1年になりました。なのにわからないことがまだまだあって...いいのだろうか? そこに追い打ちをかけるように若いスタッフが加わりました。おばちゃんを助けてね~~ (^_^);、頼りにしています。(ままりん)

発行 / 市民協働サポートセンター まんまる
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F
e-mail : npo@nagano-shimin.net
ホームページ : http://nagano-shimin.net/